

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成21年8月号

編 集 大井 利夫  
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3  
社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>  
受付時間 9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月1日  
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)  
郵便振替 00190-5-396045  
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

## 医療機関における新型インフルエンザ対策について

織田 進

労働者健康福祉機構福岡産業保健推進センター 所長  
福岡会場基礎課程(臨床医学各論I) 講師

平成21年7月16日現在、我が国では新型インフルエンザが3441例となり、県別では国際便の多い空港がある県およびその周囲の県に発生が多く、全都道府県に患者が登録され、増え続けています。このことは、すべての医療機関において、新型インフルエンザの患者を診察する可能性があることとなります。今までは、児童や若い成人の患者が多く、死亡例はありません。しかし、今後は抵抗力の低い患者が通院または入院している病院内で感染する機会が増えますので、がん、糖尿病、慢性呼吸器疾患等の患者が新型インフルエンザウイルスに感染すると重症化する可能性があります。実際にWHOの発表では、平成21年7月6日現在、世界で94,512例(内死亡426例)であり、重症例には、糖尿病、慢性心疾患、がん、妊娠等が報告されています。

季節性インフルエンザは、発症1日前からウイルスを排出し、発症後5~7日感染能力があるとされています。新型インフルエンザの診断は、発熱などの症状が出現し、A型インフルエンザウイルス迅速診断キット陽性の場合、新型インフルエンザの確定検査を実施しています。このため、この迅速診断キットで偽陰性であれば、新型インフルエンザを見逃すことになり、この患者が感染を拡大することになります。このまま、新型インフルエンザ患者が増え続ければ、秋に向かってウイルスの増殖に好条件になり、第2波が危惧されます。その際、高病原性(強毒性)になっている可能性、現在有効な抗ウイルス薬(タミフル等)抵抗性ウイルス(日本でもすでに報告されている)の増加等の予測もされています。

新型インフルエンザ対策において、医療従事者として日常の咳エチケットだけでなく、医療機関としての対応を早急に整備する必要があります。厚生労働省のホームページにある医療機関における新型インフルエンザ感染対策について(<http://www-bm.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/hourei/2009/06/info0602-01.html>)や、いまからできる!一般医療機関のための新型インフルエンザまん延期の診療継続計画作り(<http://www-bm.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/dl/090430-01c.pdf>)等をぜひ一読し、各診療科の診療録を管理しながら、最近合併症として肺炎が多いことに気づく、あるいは電子カルテに登録される病名の頻回のチェック等、診療情報管理士として、今から取り組めることを提案してほしいと思います。